



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

宮城県 気仙沼市立面瀬中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基
づく「オリンピックの価値」等を
伝える



個人またはグループワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック/アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年7月13日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年1組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・アトランタ1996大会にバスケットボール競技の女子日本代表として出場したと自己紹介した後、現役時代は「アケ」と呼ばれていたため、皆にも「アケ先生」と気軽に呼んでほしい。バスケットボールを使用した運動を行うが、バスケットを上達させる教室ではなく、誰でも楽しめる内容を行うので、積極的に参加してほしい。運動の時間は、「失敗しても良いので積極的に取り組む」「協力しながら助け合って取り組む」「説明時はボールを床につかない」の3つの約束事を守りながら参加してほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備運動として、1人1球バスケットボールを使用して、ボールハンドリングや準備体操を実施。
 ・主運動では、①パス回し競争(全3回)と、②シュート競争(全2回)を実施。
 ①班毎に分かれて円を作り、ボールを持っている生徒の両隣以外の生徒にパスを回し、連続でパスできた回数を競う。
 ②各班5球ずつボールを持ち、シュートが入ったらボールをゴール下のマーカーの上に置き、如何に早く5回シュートを決められるかを競う。



・運動の時間を振り返り、3つの約束事を冒頭に伝えたと、皆ルールを守りながら、班毎に協力し、助け合いながら積極的に参加してくれていたと称え、皆で拍手を送り合った。座学の時間では、オリンピックやオリンピックバリューの3つの価値について、オリンピックに出場するまでや、出場した際の経験も話しながら、掘り下げて考えていきたいので積極的に参加してほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック/アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年7月13日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年1組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・オリンピックとオリンピックバリューの3つの価値について、皆で考えていきたい。しっかり前を向いてメモを取りながら参加してほしいと授業の目的を確認した後、競技の映像を見せながら自己紹介。近代オリンピックは、フランス人のピエール・ド・クーベルタンによって健康な肉体と健全な精神を持った若者が世界各国・地域から集い、スポーツを通して交流を深めることで社会の発展を促し、世界平和につながる思いで創設された。オリンピックにはオリンピックバリューの3つの価値があり、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「仲間」、リスペクト：「ルールを守る」と説明。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問①：運動の時間を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。

発問②：学校生活や日常生活を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「①失敗しても諦めなかった」「②テスト勉強を一生懸命頑張る」等
 フレンドシップ：「①チームで作戦を考えたい」「②休み時間に分からないことを教え合う」等
 リスペクト：「①シュートを入れてくれたことに感謝する」「②塾の先生に感謝する」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューについて考えてもらったが、オリンピックバリューの3つの価値はオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人が共有できるもので、皆の生活にも当てはめて考えることができる。様々なリスペクトを発表してもらったが、自分自身へのリスペクトも忘れないでほしい。自分自身の可能性を信じ、挫折しても前向きに捉え、失敗を恐れず何事にも挑戦してほしい。2024年にはパリ大会が開催されるので、是非テレビ等で観戦して、応援してほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック/アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年7月13日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年2組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・アトランタ1996大会にバスケットボール競技の女子日本代表として出場したと自己紹介した後、現役時代は「アケ」と呼ばれていたため、皆にも「アケ先生」と気軽に呼んでほしい。バスケットボールを使用した運動を行うが、誰でも楽しめる運動を行うので、積極的に参加してほしい。オリンピックバリューの3つの価値について、生徒に問い掛けながら説明し、「失敗しても良いので積極的に取り組む」「協力しながら助け合って取り組む」「説明時はボールを床につかない」の3つの約束事を守りながら参加してほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備運動として、1人1球バスケットボールを使用して、ボールハンドリングや準備体操を実施。
 ・主運動では、①パス回し競争(全3回)と、②シュート競争(全2回)を実施。
 ①班毎に分かれて円を作り、ボールを持っている生徒の両隣以外の生徒にパスを回し、連続でパスできた回数を競う。
 ②各班5球ずつボールを持ち、シュートが入ったらボールをゴール下のマーカーの上に置き、如何に早く5回シュートを決められるかを競う。



・運動の時間を振り返り、3つの約束事を守りながら、より良い結果を出すにはどのようにしたら良いのか、班毎に作戦を考え、一生懸命取り組んでいた姿が素晴らしかったと称え、皆で拍手を送り合った、座学の時間では、冒頭に説明したオリンピックバリューの3つの価値について、オリンピックに出場するまでや、出場した際の経験も話しながら、掘り下げて考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年7月13日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年2組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



・競技の映像を見せながら現在もコーチとしてバスケットボール競技に携わっていると自己紹介を行った後、オリンピックにどのようなイメージがあるかを問い掛け、近代オリンピックは、ピエール・ド・クーベルタンによって健康な肉体と健全な精神を持った若者たちが世界各国・地域から集い、友好を深めることで社会の発展を促し、世界平和につなげる思いで創設された。自身のオリンピックバリューについて、中学2年時に日本代表の試合を見て、オリンピックに出場することが夢となり、家族や仲間を支えられながら、練習を続けた結果、オリンピックに出場することができたと伝える。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問①：運動の時間を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。

発問②：学校生活や日常生活を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「①全力でシュートに挑戦した」「②勉強や部活動を頑張る」等

フレンドシップ：「①意見を出し合って作戦を考えた」「②部活動で先輩に教えてもらう」等

リスペクト：「①相手チームにも拍手を送った」「②交通ルール、校則を守る」等



・座学の時間を振り返り、発表してもらったようにオリンピックバリューの3つの価値はオリンピックに出場した選手だけのものではなく、皆の身近にもあり、多くの人が共有できるものだと感じたと思う。自分自身へのリスペクトも忘れて自分自身の可能性を信じ、失敗を恐れずに何事にも挑戦してほしい。2024年にはパリ大会が開催され、2030年には札幌市に冬季大会を招致する活動も行っている。オリンピックを見る際は、オリンピックバリューを思い出しながら、応援してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年2組



■ 修了証贈呈

